

第3回 川越市総合計画審議会 議事要旨

1 開催日時 平成27年7月13日（月）午前9時30分～午前11時55分

2 開催場所 川越市本庁舎7階 7AB会議室

3 出席者

溝尾良隆、河野哲夫、大泉一夫、川口知子、小野澤康弘、川口啓介、高橋剛、山木綾子、小林薫、伊藤匡美、関口一郎、野澤千絵、真下英二、岩堀和久、岡田弘、小倉元司、柿沼昭弘、櫻井晶夫、杉山榮子、長坂江、原伸次、山岡俊彦、平嶋こずえ、町田一枝の各委員

4 会議の概要

1 開会

2 会長挨拶

前回の会議から久しぶりの会議となったが、今後急ピッチで審議を進めていきたいので皆様の御協力をよろしくお願いしたい。

3 委員紹介

市議会から選出された、新しく委嘱された大泉委員、川口知子委員、小野澤委員、川口啓介委員、高橋委員、山木委員及び前回まで欠席の野澤委員の紹介を行った。

4 議事

(1) 第四次川越市総合計画原案 基本構想について

事務局から前回の議事要旨を市ホームページに掲載した旨の報告及び配布資料の確認と資料に基づき説明を行った。

配布資料に関連した質問等及び意見交換については次のとおり。

【意見の概要及び質疑応答】

○基本理念のところに「人と人とのつながりから」、「つながり」、「連携」などが出てくるが、第三次総合計画の中では、「市民と行政による協働のまちづくり」というのが目玉だった。委託型とか提案型の協働事業があるが、そのほかに、行政と他の団体などが、協働事業をやっている実例があれば御提示いただきたい。

- ・市民が主体的に取り組む協働として提案型協働事業、それ以外に自主防犯ステーション、子育て等で集いの広場、市の施設をつくることに参画いただく企画、計画立案への参画、川越市民のしおりに広告等を入れて間接的に市のコスト削減に当たっての民間企業に事業協力をいただくような取組がある。

平成23年12月に改定した川越市協働指針では、大きく分けて市民が主体的に取

り組む事業に対して市が助成をしたり、あるいは協力をしたりする形の協働。市民と行政がほぼフィフティー・フィフティーの関係で事業を進めていく、例えばイベントであったり、そういう形の協働。そして行政が主体的に取り組む事業に対して、市民の方から協力をいただくタイプの協働と、3つに分けて、それらの内容について御説明をしている。

- 第三次の総合計画の中では、「ふれあい 支え合いの安全・安心なまちづくり」と、コミュニティの大切さに改めて目を向けながら、地域で助け合うということが書かれている。しかし自治会関係の仕事をしていると担い手不足や参加者の減少に直面する。行政がもうちょっときちっとした形でやっていかないと、第四次の総合計画の「つながり」というところにはなかなか行き着かないと感じる。
- ・施策の大綱の「住民自治の推進」に「市政への市民参加や住民主体の地域づくりと、市民、民間団体、事業者、行政等による協働を推進」ということで、それぞれ多様な主体とのネットワークの充実を記載している。行政としても、非常に重要なことだと認識し取組を推進していければと考えている。
- 本当に地域においてはそういう状況が起きている現実を踏まえての御意見だと思う。自治会の役員をやっていると、縦割りが多い。高齢者の方が学校を支える子どもサポートやPTA、育成会がうまく結びつくとか、そういうことが大事になる。地域づくりの話とか、地域が自治を持つなど、住民自治の推進と書いてあるので、具体的にどういうふうに進めていくかということが今回問われていくことではないかと思っている。
- 第四次計画の中では、川越市においてオリンピックと川越市の100周年という1つの節目と、歴史に残る事業がある。そしてもう1点、川越市はこの10年の間に人口減少の年を迎えるという、1つの歴史的な転換期を迎えるという認識をした。そのような中で、市の税収のおよそ6割前後を個人市民税が占めており、人口減少・高齢化という中では個人市民税の減少幅が大きく広がってくる。市の財政の観点という中で、「市税収入の大幅な増加が見込めない」という表現、小幅な増収は見込めるような認識を受けるが、市はどのような見解でこのような認識で表現をしているのか。
- ・税収については御指摘いただいたような懸念について認識は持っている。市税収入については、国の税制改正など直前になるまでわからない部分もあるため、大幅な増加が見込めないというような記述にさせていただいた。市では中期財政計画というものを持って、5年間の期間の歳入歳出の収支見通しをつくっており、それに基づいて実施計画や当該年度の予算等を策定している。
- この表現は、一転するとまだ余裕があるのかなというような認識を市民は受けるかなというような印象を持つ。年少人口の減少は第三次の中でもう既に始まっている。結果が出た後に計画を立てるのではなく、将来的なデータを各施策に反映するような取組が必要ではないか。
- 高齢者対策についてマイナス面ばかり強調されている印象を受ける。健康寿命を延ばしていくことや、高齢者の力を社会に活用していくことは高齢者の生きがいにもつながることなので、これから10年間の重要施策の中心に掲げていって欲しい。ま

た、オリンピックを控えて、英語教育や観光の受け入れ態勢など、これを機会に国際的な人材が出るようなことを考えた施策を進めて欲しい。その他、副題やニックネームのようなものをつけ、親しみの持てる、めり張りのある計画にすることが大事かなと思う。

- 高齢化問題で昔よりも若くて元気な高齢者が多いので、地域で活動してもらおうということが重要である、観光客も含めて、国際の問題はどこかで触れていく必要がある。総合計画の役割として、市の組織を意識して分けないで、総合的なものをつくりつつ、その後に部とかの役割をつけるという意見だった。
 - ・高齢者福祉の推進の中で生きがいづくりの推進、健康づくりの推進のところで健康寿命の延伸、観光やオリンピック、学校教育の分野において国際化の推進を認識した内容とさせていただいている。また、重点化するものについては第三次計画の「小江戸かわごえ重点戦略」と同じような考え方のもとに第四次のなかでも位置づけていくことを考えている。
- 基本構想の理念や将来都市像に「住み続けたい」とあるが、今住んでいる人が出ていけないというのは消極的ではないか。若い人たちを取り込んでいく観点で誰もが住んでみたいと思えるまちを目指すことを目標に掲げたほうがよいのではないか。
 - ・誰もが住みたいと思っていただくということは大切だという認識も持ったなかで、今住んでいる方を大事にしたいという思いが強かったということでご理解いただきたい。
- だれもが住み続けたいと思えるの「思える」という言葉に引っかかってしまう。住んでいる人はもちろん大切だが、住んでみたいと思っている人も大勢いるのではないか。一番基本的な将来都市像なので、表現をもう少し検討した方がいいかもれない。
- 土地利用構想の「都市機能」というのはこの計画ではどのようなものを指すのか。
 - ・医療機関なり福祉機関、子育ての機関、商業、業務などの都市が持つ機能というように考えている。
- 都市機能の集約化というのはどういう意味を指すのか。
 - ・それぞれの機関をなるべく都心核や地域核等に集約化して、市民生活や都市活動を支えるため、先ほど申した望ましい土地利用等の誘導と、地域ごとの特性や魅力を生かした都市機能に集めていくということを考えた。
- 一般的に集約というと、統廃合的な意味合いもあって、都市機能の集約化といきなり言われると、ちょっとイメージしにくいと思いますので、文言を再度整理されたほうが良いと思う。これから人口が減っていく中で、財政面の制約から、まちのまとまりをつくっていくという観点が大事で、まちのまとまりを維持・保全・形成していくために土地利用をコントロールしていくという発想を盛り込んでいかないといけない。まちのまとまりを維持・保全・形成をして、適正な都市機能を、立地を誘導していきながら、社会資本マネジメントの連携をきちんとしていく。土地利用をどんどん人口減少社会仕様にしていくためには、今後、何かしら統廃合が起こって公共施設の用地があいたときに、一番高く売れるからといって全然関係ないところに売るのでなくて、誰もが必要なもの、その地域に必要なものを誘致していく

というような形で、きっちりと土地利用と公共施設マネジメントを連携していかないといつまでたってもできないということになる。10ページの「都市構造の構築」のところに「社会資本マネジメントの連携により」といった文言と、都市機能の集約化ではなくて、補足する文言を入れるか、「都市機能を適正に配置したり、適正に立地することを誘導する」というようなことを入れたほうがわかりやすい。今やっていかないと絶対間に合わない視点である。

12ページ、「都市的土地利用」の「商業・業務地について」のところに川越の強みである観光産業を記述できないか。都市経営的に財政を強くしていくという意味でいうと、明確に観光や観光産業を支えていくといったことを、今いる人だけじゃなくて、外からの人にお金を落としてもらおうという、そういう形で行政の財政基盤を上げていくという観点も必要ではないか。

また、12ページ「土地利用の方向性」について、川越はこれまでのいろんな経緯から、拡散して混在し始めているという状況なので、まちのまとまりをつくっていくし、農地や樹林地といった自然環境もまとまりをつくっていく、あるいは適切に維持をしていくというような、書きぶりのほうが財政面に返ってくるお話なので、そのあたりを少し検討されてみてはと思った。

- 都市機能の集約化ということで、川越市では現在、立地適正化計画の策定を進めており記載の内容が抽象的だということ、その辺を含めて、都市計画部門と調整した上で検討させていただきたい。2点目、3点目のご指摘についても、内部で調整を図り、適正な対応をとらせていただきたい。
- 今、社会全体で若い人が非常に欲を失っているという時代に入っている。今回、この10年間で若い人たちをどのように位置づけてこの構想を組んでいくのかということが見えにくいという気がする。少子化の問題、高齢化の問題については、国の政策からどんどんおりてきて、独自の施策に反映をされているのは既に見えている。ところが、若い人たちが今後、どういう考えでそういうものを自分たちが担っていくんだということをしっかり位置づけて理念なり施策を組んでいくようなことを、しっかりやっていかないと、今後、その先、またその先が非常にきつくなってくる。何らかの形で若い人たちに、川越市はこの構想についてはどれくらいの年代のところにもかなりウェートを置いたターゲットを置いているのかということも見せていったほうがいいのではないか。
- 若い人に川越にとどまっていただく。「住み続けたい」というところで、いていただくということの中に、また、地域とのコミュニティの関係も強く影響する部分があるかと考えている。若者に対する仕事の支援的な部分も含めて、計画としてそのような位置づけもしていければというふうに考えている。
- 将来人口について、「推計値を上回る人口の確保を目指します。」とあるが、多ければよい訳ではなくバランスのことがある。若者を取り込むというふうな発想と、生産人口の問題も絡めて考えそのところの理念はもう少ししっかりと考える必要がある。川越市内企業の労働者に対する賃金の平均は周辺の中でもかなり高いが、川越市民で、賃金労働者の収入は少なく、県内でもかなり下のほうに位置する。生産人口とも絡むかもしれないが、川越市には他の自治体から働きに来ている人が多く

て、地元の人が地元で働いていないようなことがあるかもしれない。基本構想のなかでも、若干地域の経済の活性化みたいな表現はあるが、地域循環経済の構築みたいなものをもっと明確にどこかで示さないといけないのではないか。8ページの基本理念のところ「仕事をしたい」という表現があるが、起業のみを指す表現に思える。また、「住み続けたいと思える」の「思える」はなくてもよい気がする。基本的に地域の中で働く人たちへの支援を色々なところに入れていただきたい。もう1点、「平和」という言葉がなくなってしまうている。第三次の基本構想理念の中に「安心して平和に」とか、第二次総合計画でも「平等・公平で平和な」とあり、市民憲章でも最初に「平和で文化の香り」という表現がありながら、この出だしのところで「平和」がないのはなぜだろうか。誰にも優しいとか平和といった文言をぜひ入れて欲しい。

- 賃金については、川越の市民が川越で働いている賃金が低いのではないかというお話があったので、現状を調べてその辺を少し入れてもよいのではないか。地域の中の経済の循環システムをつくるという話が、観光の立場でいくと、川越のまちがすごい人気が出てくると一番街に全国チェーンの店が入ってくる。すると、表面的な売り上げはふえても、外にみんなお金が行ってしまう。だから、循環システムでいけば、なるべく地元、あるいは埼玉県の店舗が入るシステムをどういうふうにつくるかとか、個別には非常にいろんな問題が出てくると思うが、事務局のほうで何か考えは。
- ・市に活力を生み出すためには、市民の働く場である産業が身近にあるということが必要だと考えるし、子育て世代の方々には、ある程度職と住が接近していたほうが良いというような観点もあると考えている。また、創業等の関係も推進していくようなことが必要と認識している。平和の関係については、基本目標の⑦の項目のひとつに「平和で思いやりのある社会づくり」というものがある。御指摘いただいた基本理念の中に言葉を入れさせていただくかについては、今後検討させていただきたい。
- 農業のほうでは6次産業化が進んでおり、工業、商業、農業がうまくつながっていけば、今、川越市が抱えている遊休農地の解消も随分進むと思うが、川越市としては工業、農業、商業がどういうふうにつながっていったらいいと考えているのか。
- ・農業、商業、工業、そして観光産業、4つの連携した取組というのが大変必要と考えている。そのような中、農業でいうと、川越産農産物のブランド化を含め、それを活用した6次産業の関係、また、工業に関しては、「KOEDO E-PRO」という形で既に進んでいるが、その宣伝を商業に結びつけていくようなことが必要と考えている。
- 6次産業化ということで農業のほうは随分進んでいるが工業が一番難しい。工業は製品が一般消費者にすぐ行くものだったら結びつく。また産業観光といって、工場を視察するようなものがあるといろんな点で結びつく。
- 川越の野菜をカッティングして販売したりするような施設はどうしても農業だけではいけないので、工業ともちょっとコラボして一緒にやっていたらいいのかなと思う。

- 川越市は食の分野に対する取組が遅れている感じがする。食の分野は商業にも工業にも、観光にもつながる。特に観光の面では、例えばオリンピックで外国人観光客がいらっしゃるときには目玉にもなり得る。川越市の切り口の強みの一つとして持っていれば川越のマーケティングが進むのではないかと感じる。川越は農と商とか、農と一番街の部分が結構分断している。そこをつなぎ、農家レストランのようなものを一番街に出す、近所の農家が素材を提供する、卸売市場と連携するといった形で新しい川越の顔を出せないか。川越は大都市に最も近い農村の様相を持つところだと思っているので、物すごいビジネスチャンスがあるような気がしてならない。
- 菓子屋横丁は本来製造業だったわけだが、自分たちのものを販売して、3次産業に結びついたわけですね。一番街も歩いてみると、すばらしいソーセージでお店を出したり、割合自分たちの地域のものを出している。やはり川越の一番街の特色も、そういう形で出していくとよいのかもしれない。
- 通学路の整備を市内全域で進めたい。この整備がなされていないところは、高階地区では、地域の方と、スクールガードさんに活躍いただいて、事故もなく過ごしている。保育園と小学校の連携ということで今行っていることを教えていただきたい。また、放課後の居場所づくりということで学童保育の保育環境に結びついているが、学童を使わないご家庭も多い。現実の子どもたちの環境を考えると居場所づくりが今後の課題の1つではないか。もう一点、親自身の資質の向上をどこかに入れられないか。青年会議所でも、親の視点を変えていくという方向で活動を行っていた。
- 子どもたちの安全な通学路というのは非常に大事なことで、地域の人たちの安全な道が必要なわけで、安全・安心な暮らしの中にあまり道路問題が入ってないので、やはり、少し道路問題は入れたほうがいいのではないかなと思う。
- ・幼保小の連携については、今、子どもたちの自立とか社会性というところが問題になっており、これを育てるために継続性ある指導が必要だということで、幼稚園、保育園、小学校の関係者が集まって、話し合いや研修会を行う懇談会を設けている。また、授業を公開して、その授業の中でどのような子どもたちを育てるかという、その後の話し合いの題材としながら取り組んでいる。
 - ・学童保育については、昨年度、川越市の基準条例というものを設けそれに基づいて学童保育を整備している。かなり厳しい基準なので、それにのっとった形での各小学校における学童の現在のあり方を見直し、整備を計画的に行っていくという予定となっている。
- 将来都市像について、ぱっと見て、市民の方がこれを読んで、何を目指しているのかというのがずっと入ってくるのか疑問に感じる。「人がつながり、魅力があふれ、だれもが住みたいと思えるまち 川越」ということで、「が」が3つ並んでいる。第三次の「人、まち、未来、みんなでつくるいきいき川越」は非常に語呂がよかった。
- 住みたいと思えるまち川越とか、あるいは誰もが住みたいと思える魅力あふれるまち川越というふうに、すっきり1列でおさまるような表現がいいのではないかなと、もう少し工夫する必要があるのではないかなと思う。また、基本目標の7番目、「地域

で支え合う」という文言にした理由を伺いたい。

- ・昨年、市民センター構想ということで、各地区に地域会議というものが設置されているというふうに認識している。コミュニティの希薄化や、地元のそういったグループ・団体の参加意識の低下といったものが非常に課題であるというふうなことが議論されているが、地域ぐるみで取り組まないことには、なかなか底辺は上がっていかないだろうなという考え方があり、地域会議も含めて、地域全体でそういったことを取り組んでいって、それが結果的に安全・安心なまちづくりにつながっていくだろうという考え方が主流だというふうに考えている。
- コミュニティの希薄化について、さまざま団体等々の皆さんからさまざま御意見が出されたが、少子高齢化によって、これからそういったコミュニティの形成が非常に難しくなる。またコミュニティの希薄化が地域経済に与える影響だとか、あるいは地域の防犯、安全・安心面に与える影響は大きいと感じる。川越市がここに力を入れていくという思いが語られたと思うので、そういった方向で、さまざまな諸施策の展開がされるのであろうというふうに思う。
- 基本構想の理念について、「人と人とのつながりから広がるまちづくり」とあるが、今後はやはり人と人とのつながりというのは希薄化していく可能性のほうが高いと思われる。第三次川越市総合計画基本構想理念のほうには書いてあるが、一人一人の人権を尊重するとともに、一人一人が安心して平和に暮らしていけるまちづくりというのが今後求められていくのではないかと感じた。
また、9ページの「分野別の基本目標」というところの①の子ども・子育てのところに「子どもが健やかに成長でき、子育ての楽しさが感じられるまち」とあるが、希望としては、子どもが楽しく健やかに成長できて、親は子育てが快適に感じられるといいなと感じた。東京オリンピックのゴルフの競技の開催が川越市で行われると7ページにあるが、川越市に決定した経緯を知りたい。
- ・オリンピックの決定については、オリンピック委員会のほうで競技開催の種目と大会会場を決定した中で今回、リオのオリンピックからゴルフ競技は百何年ぶりに復活するという中で、東京のオリンピック・パラリンピック大会については、JOCでなくIOCが東京周辺のゴルフ場を調べて、一番質の高い川越市の霞ヶ関カンツリーに決定した。
- 商業、農業、工業、観光の問題というのは、商工会議所も非常に関与しておりいろんな分野で市とタイアップしている。小江戸観光協会や商工会議所との連動がここに求められてくるのだと考える。現存の商業・工業の企業さんに対するお話として、基本構想の中に「現状で維持」という表現があったが、現状では今、現会員をいかに維持するかということがとても大切なことで、その方たちが外に出てしまうという問題点がある。そういった意味からすると、商業・工業の経営者または働き手の方に対して、現状の企業さんに対する、思いやりをもっと適切にしていきたいと感じる。他の市町村の中では川越市がやってないことをもっともっとやりたいと、各企業に対するトライを一生懸命やっている市もある。外に流出しないように、また、自分のまちの中の工場が少しでも有利に広められるように、県に対するアプローチとか、例えばコンシェルジュをつけるとか、流出を防ぐためにこのようなこと

をやっていると感ずることが多々ある。そういった意味では、企業に対する事業所税、個人のお金も大切だが、事業所税を払ってくれている企業に対しても格段の御配慮をいただけるように、先ほどの思いやりという表現がいいなと感じたが、工業の面だけ見てみると、ただ企業誘致というふうに書いてあるだけなので、今のような文言がつけ加えられるとよいと感じる。

- 10ページ、「都市構造の構築」の箇所、「拠点都市として、広域的に求心力のある、魅力にあふれ、活力に満ちた都市を目指します。」という文言がある。川越は拠点都市として活動し、周辺自治体とともに都市圏を構成するというのは、それは構成としては納得できる。もしそういう都市のネットワーク化を促進するというのであれば、この都市圏を形成するというのであれば、周辺自治体とのネットワーク化というのも意識しなければならないと思うが、この周辺自治体とのネットワークという観点で、今どういったものをイメージしておられるのか。同じくネットワークという観点から、従来のつながりというものは確かに希薄化しているけれども、いろいろな主体同士のつながり、単純に地域的なものだけではなくて、例えばNPO的なつながりや、企業をつながり、さまざまつながりが起こり得ると思うが、そのような観点はこのつながりの中に含まれるのか。
- ・他都市との連携、ネットワークについては、本市周辺における、近隣自治体との鉄道、バス等で、地域とのそういったネットワークをイメージしている。また、先ほど、テーマの中で圏央道の整備ということがあったが、観光面、文化面、産業面などもかなりポテンシャルの高いということで、そういったつながりも今後活用できるのではないかと考えている。
- ・市民の方、民間団体の方、事業者の方、さまざまな方とのさまざまな主体というのでも、協働であるとかネットワーク、そういったものを充実するということでのネットワーク化というのもこういった考えの中に含まれるというふうに理解している。
- 学童保育に入らない子どもの居場所づくりとして、高階市民センターの児童館と図書館というのは成功した例の一例だと考える。そういうようなところを総合計画の中に、盛り込めたらと思うが、学校以外の子どもの居場所についてはどうお考えかお聞かせいただきたい。
- ・学童以外での子どもの遊び場とか、青少年の健全な育成に資するような居場所づくり、活動の場所の必要性ということにつきましては大変重要なことだと考えている。その中の一つとして青少年の施設的な部分で児童館の位置づけ、児童遊園の位置づけ等もあるので、充実を図りつつ対応することが必要だと認識している。また、地域全体で子どもを育てていく必要性、地域の子育てに関するネットワークづくりとか子育てサークル等への支援についても、充実を図っていく必要があると考えている。

(3) その他

【連絡シートについて】

- ・審議内容について御意見、資料についての御質問がある場合に随時事務局へ御連絡いただけるように作成した。メール、ファックス、郵便どのような形でも構わない

ので御利用ください。

【日程の変更について】

- ・第8回目の会議が8月19日から8月17日（月）午後4時～6時、会場：市役所7AB会議室に変更となった。

【次回の会議日程について】

- ・次回の会議日程については、7月23日（木）午後7時～9時、会場はウエスタ川越活動室1，2。

5 副会長挨拶

河野副会長が、閉会に当たり挨拶を行った。

6 閉会

以上